

1 学校教育目標							
「創造 勤労 感謝」の校訓のもと、各学科の学習や体験活動を通して一人一人の生徒に応じた多様な可能性を伸ばし、地域社会の発展に貢献できる人材の育成を目指す。							
「教育は人なり」の理念のもと、教職員が一丸となって、生徒一人一人の自己実現を支援する。							
1	伝統ある校風の継承と創造	2	特色ある総合高校づくり	3	学力の充実と個に応じた進路指導	4	教育環境づくりの推進
5	人権教育の推進	6	安全教育の推進	7	地域社会から信頼される学校づくり		

2 本年度の重点目標									
1	愛情ある生徒指導	2	基礎学力の定着	3	個に応じた進路指導	4	美しい環境作り	5	安全教育の推進
6	家庭・地域社会との連携強化								

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目標管理	教育目標及び重点目標の周知・理解のため、学校情報を分かりやすい内容で定期的に発信する。	全職員が共通認識として実践する。生徒、保護者に教育目標を認知させる80%以上。	職員会議や研修等で常時啓発する。 教室への掲示、学年集会等、全校集会での周知。 PTA総会、広報誌、HP等を通じて啓発を図る。	B	学校評価アンケートの結果、理解していると回答した生徒82%(-2.6p)、保護者93.6%(±0)であった。教室掲示等できておらず、掲示の工夫や学習活動、学校行事等での継続した啓発が必要。
	生徒募集	募集定員の確保	募集定員の60%以上の志願者確保。	中学校訪問での進路意識の把握、体験入学、HP、学校パンフレット等などで魅力ある学習内容の広報充実を図る。 HP、動画を活用し、定期的に各行事、学科毎の学習状況を更新し情報発信を強化、年間閲覧目標数8万回。	B	学校パンフレットは予定どおり作成し、近隣中学校3年生全員に配付した。学習活動動画を作成しYoutube「北稜チャンネル」を立ち上げて動画を用いた学習活動等の発信を行った。HPに日々アップし、年間閲覧数が8万6千回を超えた。これらの取組で前期選抜では昨年より23人増であったが、目標を下回った。コロナ感染拡大により体験入学を実施できなかった点が遺憾であるが、バーチャル体験入学、リーフレット作成配付等に対応した。さらなる中学校との連携が必要である。
	業務改善	子供たちと向き合う時間を確保し、やりがいを持って効果的な教育活動を持続的に行うことができる環境の実現	教職員の勤務時間の削減を図り、教職員が本来の業務に一層専念できる環境を整える。	・一人1台端末導入・活用に向けた、ICTを活用した授業研究。 ・情報共有のための会議、資料作成の負担軽減のため、教務支援システム等の活用による生徒情報管理の統一化の徹底、校務支援システム、メール等の有効活用 ・デジタル教材の活用。	B	・一人1台端末の導入が急速に進み、活用の準備や研修のため今年度の業務は増加した。一方で、授業研修で端末の活用についてのノウハウも共有できたため、次年度以降への準備はできた。 ・校務支援システム、メール等の活用により業務効率化を進めることができた。 ・電子黒板の全教室導入で活用の幅が広がり、ICT化を進めることができた。

	働き方改革	教職員が心身ともに健康でワーク・ライフ・バランスを実現できる環境を整える。	全教職員が働き方改革の必要性を理解し、月の時間外勤務の上限の時間45時間以内、年の時間外勤務の上限の時間360時間以内の全職員実現。	学校閉庁日・部活動休養日の設定 教職員1人当たり年次有給休暇の平均取得日10日以上の推奨。	C	・学校閉庁日4日設定し、生徒保護者へ周知し実施した。部活動休養日は各部において設定した。 ・SC、SSW、特別支援教育支援員、キャリアパス等の等を積極的に活用した。 ・総時間外時数は12月末までで45h以上150人、80h以上39人で、昨年度4・5月休校の影響もあり、昨年度比30.3%増であった。残業時間の月平均も3時間増となった。 ・本採用職員の45.3%が年間10日以上年次有給休暇を取得した。
	開かれた学校づくり	保護者・地域行政等との連携	魅力ある総合高校として推進し、特色あるカリキュラムを発信するとともに、学校行事の保護者等に参加、地域の行事への参加、新たな取り組みの発信を行うことで、本校のさらなる魅力化を図る。	・地域行政との事業推進、高大連携及び企業間交流を実施する。 ・農産物販売や各種展示、奉仕作業など、地域における生徒の活動の機会を増やすことで、地域資源の掘り起こしと活用を行う。 ・学科ごとに中学校との交流事業を実施する。	B	玉名市役所を主とする熊本県立大学とのスタートアップ事業において、JR玉名駅利活用の取組で、駅前農産物販売、観光列車おもてなし活動や北稜高校魅力化事業での生徒自身の学校PR動画作成を実施できた。各学科の学びを生かした箱庭の作成展示、市役所への門松設置など地域に根ざした活動ができ取り上げられた。コロナ禍の中、中学校との花壇作り交流などは実施できたが、制約があり取組としては十分ではなかった。小中学校や福祉施設等の出前授業や交流学習、玉名市と連携した活動を継続していく。
学力向上	学習習慣の育成	学習時間の向上	学習時間を自己管理する力を付ける。家庭学習の習慣をつけ、学習時間を向上させる。	・家庭学習課題を定期的に与え、日常的な学習を習慣化させる。 ・「NOLTYスコラ手帳」等を活用し、学習時間の把握や学習習慣の醸成に活用する。	C	各学年で学習習慣育成のための取り組みを行っているが、具体的な成果に結びついていないと言いがたい。次年度は観点別評価とも連動した取り組みも考える必要がある。また、一人1台端末の活用も研究する必要がある。
	学力の向上	基礎学力の定着	高校入学までに定着していなかった事項を再確認し、「学びの基礎診断」におけるDレベル評価の生徒を減らす。定期考査に向けた事前指導に力を入れ、欠点科目数を減少させる。	・北稜タイムの時間を活用し、「LITERASワークブック」等の基礎学力醸成のための教材に取り組む。 ・「学びの基礎診断」実施2週間程度前から、事前課題に取り組み基礎的事項を再度確認する。 ・低学力者を中心に個別指導を実施し、理解の向上を図る。	C	学びの基礎診断の実施時期を変更し、事前学習を行った。Dレベルの生徒が、昨年度と比べ74%から72%に微減したが、入学する生徒の学力変化も考えると成果は上がっていない。基礎学力向上に向けての対策は、今後も継続的に考えていく必要がある。
キャリア教育（進路指導）	進路意識の啓発	進路の早期決定と目的意識の啓発	各学年・学科の連携と継続した進路指導の展開と全職員によるキャリアカウンセリングの実施。生徒自身の諸活動の振り返りを通して、進路指導を充実させる。	・年間を通し職員に対するキャリアカウンセリングの啓発活動。新型コロナウイルス感染防止対策をしながら、進学ガイダンス、職場見学、インターンシップ、オープンキャンパス等に積極的に参加させる。 ・キャリアパスポートを活用し、生徒自身が自己を振り返る機会を設け、それをもとに進路意識を高める指導を行う。	B	・コロナ禍で進路につながる行事の中止や延期が多かったが、実施可能な進路ガイダンス、職場見学、インターンシップ、オープンキャンパス等に新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、積極的に参加させることができた。 ・計画的にキャリアパスポート等を活用しながら生徒が自己を振り返り、進路意識を高める指導ができた。

	進路希望の達成	進路目標実現の進路保障	ミスマッチを解消し、個に応じた就職・進学体制の確立と進路目標達成100%を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員で情報の共有化を図り、組織として進路指導にあたる。</li> <li>・進学希望者へは、受験対策のため、進路目的別の課外とともに個別指導の充実を図る。また、職員は、学校説明会等に積極的に参加し、生徒に情報提供できる体制を強化する。</li> <li>・就職希望者へは、キャリアサポーターや就職支援担当を中心に面談を行う。</li> <li>・企業訪問を積極的に行い、そこで得た情報を生徒への指導、支援に生かす。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入試制度や就職活動の新しい情報を共有し、組織として進路指導に当たる必要がある。</li> <li>・進学希望者に対する課外などがコロナ禍で計画通り行かなかった。また、個別指導に対しても生徒の意識向上を図る必要がある。</li> <li>・就職者へはキャリアサポーターや就職支援担当者を中心に面接を行い、生徒の就職活動が円滑に行えた。</li> <li>・3年の進路目標を達成できた。</li> <li>・企業訪問や企業説明会で積極的に企業の担当者と交流することで得た情報を元に生徒の指導・支援に生かすことができた。</li> </ul>
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	整容の徹底	整容に関する意識の向上を図り、年間における継続指導対象者が一桁になるように指導する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期始めの整容検査を一斉に実施し、全校生徒及び全教職員が共通理解の上で整容を徹底する。</li> <li>・継続指導対象者の状況等を教職員間で情報共有しながら、全教職員で個別の指導、支援にあたる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で2学期以降各学年での検査を月に一度実施し、学年の協力で整容を整えることができたが、自主性に課題がある。</li> <li>・継続指導者に対して学年と情報共有を図り、保護者の理解や協力を得て適切に個別での指導、支援にあたることができた。</li> </ul>
		マナーの向上	自発的に挨拶ができ、TPOに応じた言葉遣いや適切な行動ができるようになる。また携帯電話の利便性や危険性について理解させ、マナーを向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な挨拶や公共の場におけるマナー向上を図る為、授業や学校行事等で継続した指導を行う。</li> <li>・「携帯電話利用ルール五箇条」を遵守し、携帯電話の危険性について生徒会が中心となり、継続した啓発活動を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大部分の生徒が積極的に挨拶やその場に応じた言葉遣いを実践でき、その結果公共の場におけるマナーも向上した。</li> <li>・全校集会や各学年集会において携帯電話やスマートフォンの危険性について訴え、大きな問題は見られなかった。今後も生徒会が中心となり、継続した啓発活動をしていきたい。</li> </ul>
人権教育の推進	学校全体で取り組む人権・同和教育の推進と命を大切に育てる心や育む指導の取り組み	人権・同和教育のさらなる充実	同和問題をはじめとする人権問題に対する基本的認識の確立を促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年毎にテーマを決め、人権教育LHRを毎学期実施する。また、11月に人権教育講演会を実施し、人権問題を自分のこととして考える機会を設ける。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期1回の人権教育LHRと11月に人権教育講演会を行い、生徒の人権意識を高めることができた。</li> </ul>
		職員研修のさらなる充実	人権・同和教育に関する研修を通して人権感覚を磨き、人権意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部落差別解消推進法と統一応募用紙に関する研修を実施する。また、人権教育に関する校外研修へ年間最低1回の参加を促す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「具体的方策」に掲げた内容の研修の時間を確保できなかったが、人権教育全員レポート研修会を実施し、各自の教育実践を人権教育の視点で検証しあうことができた。また、コロナ禍により校外研修の機会が少なくなり、少数の参加しかできなかった。</li> </ul>
いじめ防止等	すべての生徒にとって安心・安全な生活ができるいじめのない環境の確立	いじめを未然防止するための体制づくり	日常の学校生活の中で生徒との信頼関係を構築し、生徒の様子を的確に把握する生徒がいじめをなくす主体として活動する機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の「心のきずなを深める月間」に心のきずなを深めるLHRを実施する。</li> <li>・心のきずな委員会を年間5回以上開く。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の「心のきずなを深める月間」に心のきずなを深めるLHRを実施し、自分の性格に気づいたり相手の気持ちを考えたりする力を高めることができた。</li> <li>・心のきずな委員会を7回、委員会研修を2回実施。また、北稜祭でいじめについて考えるメッセージ</li> </ul>

		いじめを早期発見、解決する組織づくり	生徒の変化やサインに気付き、定期的に職員間で情報を共有し、担任を中心に組織的に早期対応する。常に最悪の事態を想定し、担任や学年団を中心に組織的な対応を図る。	・心のアンケートにおいて、いじめを受けた生徒で、「誰かに話した」または「自分で解決できる」と答えた割合を100%にする。 ・いじめ防止基本方針を改定する。	B	ジを発表することで、いじめや差別を許さない心を育成することができた。 ・いじめ事案に挙げた被害生徒は全員誰かに相談していた。 ・いじめ防止基本方針を改定することができなかったが、次年度は改定する。
地域連携 (コミュニティ・スクール)	防災型コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会の推進	学校運営協議会での共通理解と協力体制の構築。 防災教育の充実 災害時における生徒の健康管理等、危機管理体制の構築	学校運営協議会の協力体制と防災教育のあり方について確認。 学校防災(豪雨及び土砂災害・地震・津波等)マニュアル、防災組織・指示系統や連絡体制等の各自の役割について職員間の共通理解。 日常的な防災意識を高めるための防災教育と避難訓練の実施。	・学校運営協議会を実施し、学校防災(豪雨及び土砂災害・地震・津波等)マニュアル、避難所運営マニュアルの見直し、点検と確認を行う。 ・職員間での共通認識を図り、日常的に学校危機管理意識を高め、教科と関連付けた防災教育に取り組む。 ・学校安心メール、ホームページ活用等の積極的な活用による連絡体制の強化。 ・避難訓練を年2回以上実施する。	B	R3年度の学校評価アンケートの結果を見ると、「学校は、施設設備等の安全点検、管理を徹底し、安全教育に努めている。積極的に学校安全メールを活用している」および「学校は、保護者や同窓会地域の方と連携して教育活動を行っている」の項目で、それぞれ89.4%、85.2%の高評価をいただいております。目標をおおむね達成できた。 来年度から学校運営協議会が防災型から総合型へ変わることとなる。
特別支援教育	特別な支援を要する生徒のニーズへの対応	組織的な支援計画及び指導計画の作成と確実な支援の実施及び評価	支援を要する生徒について、中学校から引き続き支援計画及び指導計画を作成し切れ目のない支援を行う。また支援を要する生徒が安全で安心して学べるよう合理的配慮を行う。	・特別支援教育支援員配置事業を活用して、特別な支援を要する生徒に確実な支援を行う。 ・生徒理解研修を通じて、生徒の教育目標及び支援方法の共通理解を図り、担任、教科担当者、学年、コーディネーター、支援員で支援計画及び指導計画の作成・評価・再検討を行う。	A	・支援員による支援を要する生徒について、担任、教科担当者、支援員、コーディネーターで情報交換会を行って指導計画の作成や見直しをし、個に応じた支援に取り組むことができた。 ・1年生入学後の情報交換会や生徒理解研修、特別支援教育職員研修を実施し、職員の共通理解のもと、生徒が安心して学べるよう合理的配慮を行うことができた。
環境教育	環境調和型社会の実現及び校内美化の推進	環境保全活動や学校版環境ISOなどの啓発活動	教室移動時の消灯、ゴミ分別の徹底、また、学期ごとに安全点検を実施し安全な環境づくり。	・美化委員会を中心に全生徒へ、集会、ポスター等で呼びかけ、啓発活動を行う。	B	教室移動時の消灯や空調オフについては徹底できなかった。安全点検においては指摘のあったところは早急に改善できた。
		校内美化、地域ボランティア活動の実施	各学期、各学年での学年別掃除の充実。さらに環境美化習慣(美化コンクール)を実施し美化意識向上。	・学年別掃除を体育大会等の学校行事前に設定する。 ・美化コンクールの内容についても学期ごとに検討し意識向上を図る。	B	各学年の協力により学年別掃除は徹底して行うことができた。 美化コンクールの内容について変更しておらず来年度検討していきたい。
保健管理	健康に関する指導体制整備	新しい生活様式の習慣化	新しい生活様式の必要性を理解し、自主的な行動で感染防止対策を行う。	・マスク、手洗い、消毒を徹底する。また、昼食のとり方についても3密を防ぐ声かけを行う。 ・掃除後の教室消毒を徹底、確	B	昼食の摂り方、換気などの感染対策については、昼休みの放送などで呼びかけを行った。黙食が定着していた。換気については掲示物を作成し、全職員に効果的な換気

				認する。		を呼びかけたが、冬場は徹底できない日もあった。
		規則正しい生活習慣の確立	生徒が「健康」に興味関心を持ち、自分自身をコントロールできるようになる。	・健康診断の事後指導を徹底する。 ・校医、育友会、専門機関との連携を図り、生徒の健康状況をより詳しく把握し、アドバイスをを行う。	B	・健康診断後の治療勧告については個別指導を行った。視力・歯科の治療率に関しては昨年度よりも上昇したが、今後も継続した指導が必要である。 ・生徒の健康やコロナに関するの情報などは、その都度学校医や学校薬剤師に指導助言をいただいていた。学校保健委員会は中止になったが、学校保健に関して常に学校医・学校薬剤師と連携がとれていた。
		保健相談の充実	心も体も健康で学習活動に取りくめるようサポートを行う。	・科・学年・担任と連携を図り、個別での指導を中心に行う。必要ならば学校カウンセリングを活用する。	B	教育相談を行った生徒に関しては担任・学年主任と連携をとり、必要に応じてSCにつなぐなどの対応をした。また、SSWとも連携し、保護者への支援も行った。
専門教育	専門教育の充実	魅力ある学科づくりと地域への発信	【園芸科学科】 ・学科通信の作成と配布を行う。 学校ブログを活用して、学科の情報を発信する。	・学期に1回、学科通信を作成し、近隣中学校へ配布する。学校ブログに週2回は上げてもらえるように情報を提供する。	B	学校ブログについては、ほぼ毎日題材を情報システム部に上げ、週2回ほどブログに掲載してもらった。1学期は学科通信を1年生が出身中学校へ配布してもらったが、2学期はできなかった。
			【造園科】 ・地域連携を図り、地域の行事やイベントへの出展など積極的な参加を実践する。 ・環境教育交流会の実施。	・自然文化財の管理に年2回参加する。また、授業で学んだ専門的知識や技術を地域に還元し、やりがいと達成感を身につける。 ・近隣の小中学校と環境教育の交流をとおして、造園の魅力を伝え学科のPRに繋げる。	B	県指定天然記念物「山田のフジ」の剪定に参加予定をしていたが、学校行事やコロナ禍の影響で参加できなかった。地域交流会や庭園出展、門松作製をする事ができ、学科のPRができた。 近隣の小中学校との環境教育交流活動はコロナ禍の影響で実施できなかった。
			【ビジネスマネジメント科】 ・郷土に貢献できる人材の育成。 ・学校ブログ等を活用した情報の発信。	・長期インターンシップや販売実習を通して、郷土を理解し、郷土に貢献したいという意欲をもった人材を育て、地域との交流を深める。 ・定期的に情報を更新し、生徒の活動状況を発信する	B	長期インターンシップ、販売実習を実施し、事業所での就労体験や商品の取引を行い、地域・事業所との交流を深め、地域の事業所に関心を持つ生徒が増えた。 ・生徒の活動状況を発信し、学科のPRに繋げることができた。学科紹介等の短編動画の制作を行った。
			【家政科学科】 ・学校ブログや行事を活用し、学科の情報を発信する。 ・地域に貢献できる人材を育成する。	・定期的に生徒の活動の様子を発信する。 ・文化祭や学校説明会における授業での学びを発表する。 ・幅広い学習や実習を通して、豊かな人間性を育成する。	B	・学校ブログでの情報発信がほとんどできなかった。 ・学科（授業・行事）の取り組みをパネル展示や動画発信など県内外にPRすることができた。 ・地域との連携事業を実施し、地域への関心をもてる機会となった。
高い専門性と職業観の育成	専門性の向上と将来を見据えた系統的な学習展開	【園芸科学科】 ・地域連携を積極的にを行い、生徒の	・先進農家や企業、学校と連携し、現場実習や共同研究を行う。	B	現場実習や農業フォーラムを実施し、果樹専攻が熊本県立農業大学校との共同研究を行った。	

			達成感を高める。教育課程に適した農場作りを行い、生徒の経営感覚の育成を図る。	経営感覚を育成できるような教材の選択や農場経営を行う。掲示教育に力を入れる。		玉名荒尾地域の主力農産物のイチゴ、トマト、ミカン、ナシなどの栽培を行い、農場掲示もほぼ完了した。花苗などにより花壇交流会も実施した。
			【造園科】 ・外部講師によるより高度な専門技術の習得。 ・充実した現場実習の実践。	・若年技能者人材育成支援等事業や就業支援等プロジェクトの活用により、技術向上に努める。 ・現場実習をとおして社会人として望ましい態度やマナー及びコミュニケーション能力を学ぶ。	B	就業支援プロジェクトの事業でマイスターにより専門的知識と技術の向上につながる指導を受けることができた。 現場実習をとおして基本的な生活習慣の必要性やコミュニケーション能力を学ぶことができた。受入れ企業の評価も全体的に見て良い評価を頂いた。
			【ビジネスマネジメント科】 ・長期インターンシップを活用した実践的・体験的な学習。 ・販売実習による店舗経営。	・身につけたビジネスに関する知識・技術を、実際のビジネスシーンで実践する場を設ける。それにより課題の認識とその改善プロセスを体験により学ばせ、将来有用な職業人としての資質を育てる。 ・2年間で学んだ知識や経験をもとに、実際の店舗経営にあたり、多岐にわたる課題の出現に気づき、チームで解決する能力を育成する。	B	長期インターンシップを実施し、自己の課題の発見とその改善活動と地域や事業所が抱える課題の発見とその解決策の提案などの活動に取り組み、社会人基礎力のレベルアップに繋げる取り組みができた。 ・販売実習については、直前まで開催されるかわからない状況であったが、取引事業所との連絡を頻繁に行い、受注販売を取り入れることで安定した販売を実施することができた。
			【家政科学科】 ・専門の講師による講習会や、地域連携の取り組みを実施し、幅広い体験を通し生徒の郷土愛や職業観の育成を図る。	・地域や専門職の方を招き、講習会を実施する。 ・近隣施設での実習など交流の機会をつくる。	B	・保育園や高齢者福祉施設での実習はできなかったが、新たな地域 ・企業との連携、他学科との連携も実施でき、生徒の体験を増やすことができた。 ・地域の専門職の方による講習会を通し、郷土愛や職業観を育む機会となった。

#### 4 学校関係者評価

○小学校からのキャリア教育も含めて、小中高と連携して県立高校の魅力を伝えていくことが大事だと思います。

○新入生の確保は、公・私立高校とも熊本市内中心の傾向が顕著となりつつあるように思われます。そのような厳しい現状ではありますが、北稜高校としては中期プランで魅力の磨き上げを先生生徒で頑張ってください。

○北稜チャンネル（YouTube）で北稜生の活動に驚かされ、大いに評価できると思います。魅力ある広報になっているが、生徒募集に直結していないのが残念でならない。

○開かれた学校作りに対し、行政とも連携して多くのことに取り組み、コロナ禍で思ったような活動ができなかったと思いますが、地域に根ざした取り組みができています。この項目は特に力を入れられていると思いますので、行政や大学メディア等の連携をさらに増やしてもらいたい。

○花壇作り交流などを、小学校に来てもらって児童に教えてもらい、一緒に活動する中で、専門の学びを紹介する場面にしたらどうか。

○目的意識をもった学習については、小中高と連携して習慣化できればと思います。子供の学ぶ意欲の向上には、厳しい生徒もいるかと思いますが、基礎学力や専門教科の技能の向上に努めていただきたいと思います。

○次年度からの、総合選択制の内容は魅力ある取組なので、中学生に周知してほしい。

○基礎学力の定着のため、家庭学習時間の確保をさせる指導の強化や工夫をしてほしい。進路や将来の夢が決まれば、自ずとモチベーションも上がるのではと安易に考えてしまいますが、確かに学習の工夫を指導することは必要です。

○サポートが行き届き、多くの生徒が進路目標を達成するため適切な指導がなされている。希望の進路達成のために、日々ご尽力されていると思い、3年生の進路目標が達成されたことをうれしく思います。

○概ねマナーは向上しており、身なりに課題のある生徒はほとんど見ません。挨拶ができて礼儀正しいのが北稜生という印象があります。これからも自信を持って頑張ってください。

○コロナ関連の人権侵害等はないようで安心しました。同和問題をはじめ、様々な人権問題が数多くあります。インターネットやLGBTなど他の人権問題への研修も必要かと思えます。校内研修を通じて職員の資質向上を図っていただ

きたい。

○学校防災マニュアル等、年々充実していると思う。災害時の避難経路の確認及び消防用設備等(消火器、屋内消火栓)の維持管理や適切な使用方法についても訓練を教師や生徒と連携して行ってください。高校生になると、通学形態が多岐にわたり、在学中に災害発生した場合には、困難を招くおそれがある。災害種別における、マイタイムライン(避難行動計画)を家族間で話し合いを設けることも今後は必要ではと考える

○特別支援教育において、成果は出ているので、計画に基づき継続して実施してほしい。個に応じた指導、計画作成など職員の共通理解を図っておられ、安心して学ぶ体制になっている。不登校傾向だった生徒が元気に登校している姿を見ると感謝の気持ちでいっぱいです。

○総合高校としての将来の夢に直結する特色を生かした魅力的な内容の取り組みがなされていますが、ならではの資格取得ができることをアピールしてはと考えます。

## 5 総合評価

○学校評価アンケートの内容は、昨年度と同項目で実施し、わずがずつではあるが生徒と保護者ともに評価が向上したことは本校の取組みについて、多くの方に御支援と御理解をいただいた結果であり、地域各方面からの協力や支援体制ができてしていると判断する。特に、コロナ禍における生徒たちの体育大会での企画や運営、北稜祭での生き生きした明るく積極的な姿から、日頃の活動を生徒・保護者にPRでき十分理解していただいた結果だと考える。また今年度新型コロナウイルス感染症の影響でオープンスクール等が実施できなかったが、Youtube「北稜チャンネル」を立ち上げて動画をういた学習活動等の発信、HPの日々更新により年間閲覧数が8万6千回を超えた。またバーチャル体験入学、リーフレット作成配付等に対応した。その結果前期選抜では志願者数が昨年度を20人以上増加した。次年度も本校の教育活動を地域の方々に見ていただく手立てを検討していく。

○教育相談部を中心に、全生徒対象とした情報の集約と全職員での共有化による生徒理解に努め、支援が必要な生徒をスクールカウンセラーやS S W、外部専門機関と連携しながら、校内支援体制の確立に努めたことで、本校に入学して良かった、相談できる人がいるとの回答が増え、楽しく学校へ通う生徒の増加につなげた。

○生徒の学力向上に進路保障の面からも、全職員共通理解のもと指導に取り組んでいきたい。学習指導面では、まだまだ十分な学力向上に至ってないのでキャリア教育を意識し、ICTを活用した主体的に参加し、自分の考えや意見が言え、意欲的に学べるような授業展開を実践することで進路実現につなげていきたい。

○教育相談部、人権教育主任が中心となり、いじめ防止・生徒理解に取り組み、学期毎の全生徒対象の心のアンケート実施による情報の集約による早期対応、生徒理解に努めた。心のきずな委員会を定期的に開催し、自ら学びいじめや差別を許さない心を育成に繋げることができた。また、支援が必要な生徒をS CやS S W、外部専門機関と連携しながら、校内支援体制の確立、就労支援に繋げることができた。

○進路状況については、4年制大学に10名、短期大学に4名、熊本県立農業大学校へ8名、専門学校に21名と45%が上級学校へ進学することとなった。就職では、就職支援員、キャリアアドバイザーの活用により、経年指導による進路意識の高揚、基礎学力の向上に取り組み、新規企業開拓、進路相談、面接指導等で適切な指導を進め、学校紹介での内定率100%となり、離職率減少のための取組も実施した。

## 6 次年度への課題・改善方策

○本年度は本校の教育活動を地域の方々に見ていただく機会がとれず、諸行事も縮小、中止となる状況であった。次年度は教育目標の周知、理解の徹底に向け、教育目標の掲示、教育目標に沿った教科指導、諸行事の運営を実施し、生徒募集に繋がる新たな手立てを検討し進めていく。

○学習指導面ではまだまだ基礎学力の十分な学力向上に至ってない。新学習指導要領改訂に伴う令和4年度からの新教育課程に向け、新たな評価の観点を踏まえた日頃の授業の工夫と積み重ねが重要である。支援が必要な生徒など多様な生徒が入学する中、「わかる授業」の展開を更に心がけ、主体的に学べるような教育活動を目指した教育課程の検証と併せて確かな学力の定着を実施したい。そのために、授業研究に取り組み、教師の指導力向上に努めるとともに教科別の研究授業や公開授業の充実を図る。

○一人一台端末の導入によるICT活用への対応を進める。効果的な活用のための研修のため授業研修や教材の共有を行い、環境整備も整うので、職員全体のスキルアップを進めていく。

○生徒理解研修や個別面談等を通して生徒の実態を把握し、早期対応、早期解決に全職員で取り組む。「生徒が安心して学校生活を送れる体制づくり」を実践する。生徒一人ひとりに向き合い、生徒に「命」を大切にすることを育て、いじめのない楽しい学校生活を送れるよう支援する。

○生きる力を育む特色ある専門教育のさらなる充実と日頃の学習指導、個別指導等を実施する。さらに、玉名市等とも連携し地域の産業教育拠点校として地域の産業を支える知識と技術を持った担い手の育成に取り組み、生徒の進路実現につなげていく。

○学校運営協議会では、将来の地域産業を担う人材、社会の中で自己実現を図る人間性豊かな職業人を育成のため、地域の人的・物的資源の活用、学校内だけでなく、社会に開かれた教育課程を実施していくためにも、学校運営協議会を総合型に移行し、その実現に向け取り組む。

防災教育では、今後も発生が予想される様々な災害から生徒の命を守るため、危機管理マニュアルを随時検証し、地域と連携した学校防災を推進する体制整備を行う。

○人権教育では、相手の立場や心情を理解できる生徒の育成を目指し、人権L H R・講演会を再検討する。全職員が生徒一人ひとりの状況を共通理解して、法的なことも含めた研修の充実を図る。

○本校の特色ある学習内容、行事・部活動等を通して生徒の生き生きとした学校生活の様子を、適時にホームページで地域中学生へ発信する。更に地域広報誌等を活用して広くPRし保護者や地域の理解を得るとともに、一人ひとりの生徒が輝ける活動の場を広げ学校の活性化を図ることで生徒募集に繋げる。